

地域医療を守る運動学習交流集会 報告・発言集

2011年11月23日

新潟県立生涯学習推進センター研修室

司会：新倉 順（新潟県社保協）

I. 開会のあいさつ 竹島 良子さん（1頁）

II. 基調報告

① 新潟県の財政危機とは（2～28頁）

大矢 健吉さん（にいがた自治体研究所常任理事）

② 「地域医療構想」と県立・公的病院の役割（29～52頁）

竹島 良子さん（元新潟県議会議員）

III. 県立・公的病院の統廃合、地域の病院の存続・充実、地域医療をよくする運動に

取り組む各地域からの報告、運動交流（14：45～16：25）

① 魚沼基幹病院建設と医療再編の課題

樋口 秀敏さん

（新潟県議会議員）53～61頁

② 加茂、田上地域の医療を発展させる会

高橋 ミドリさん

（発展させる会事務局長）62～65頁

③ 魚沼基幹病院建設と小出地域の医療、精神科医療の課題

大平 恭児さん

（魚沼市議会議員）66～68頁

④ 十日町地域の医療、松代病院が果たす役割

滝沢 繁さん

（十日町市議会議員）69～70頁

⑤ 見附市民病院の今後の取り組み

渡辺 みどりさん

（元見附市議会議員）71頁

⑥ 湯沢町立病院の指定管理による影響

佐藤 守正さん

（湯沢町議会議員）72～73頁

⑦ 村上地域の医療の実態

稲葉 久美子さん

（村上市議会議員）74頁

⑧ 佐渡地域の医療の実態

中村 良夫さん

（佐渡市議会議員）74頁

⑨ 妙高地域の医療の課題と実態

霜鳥 栄之さん

（妙高市議会議員）75～84頁

IV. 質疑、意見交換 85頁

I、開会のあいさつ 竹島良子さん

本日の集会を開く経緯について

9月に、新潟県は財政危機を理由に、行財政計画行動計画案を発表しました。その中では県立病院への一般会計からの支出額が毎年非常に多い。今後もどんどん膨れてくる可能性があるということで、県立病院のあり方や、再編・統合。さらに県央基幹病院の建設計画の見直しも必要だとしています。知事は記者会見の場でも「県民の皆さんに我慢もお長居することがある」と述べている。そのような発言を聞き私たちは非常に大きな危機感を感じ、何とかしなければという思いに至りました。

新潟県の医療はへき地・中山間地が多い中で、県立病院をはじめ、市町村立、厚生連、済生会、日赤などの公的病院が大きな役割を果たしてきたという歴史的な経過があります。採算がとりにくい状況の中で、民間病院の比率は全国的にみても新潟県は低い現状です。

新潟県が示した行財政行動計画のもとでの地域医療計画の方向性で地域医療はこれまでのように守って行けるのかという不安を感じざるを得ません。このような状況をきちんと把握し、皆さんと学習を進めていくことが重要です。

この県の動きと歩を合わせるように9月、厚生労働省が、全国の病院の統廃合を進めるために424病院の名前をあげるという暴挙にでました。新潟県内には41の公立・公的病院がありますが、そのうちの22病院が名前をあげられました。

このような国と県の動きを黙って見過ごすことはできません。わたくしたちにとって必要な医療とは何か、各地域の現状も見据えてしっかりと議論をして、私たちの望む地域医療や県立病院のあり方を考えてみようではありませんか。各地域の医療の実態や、医療をよくするため、病院を守るためにどのような取り組みが行われているのかを交流し、地域医療を守り、発展させる出発点にしましょう。